

アダン筆の歴史紹介

吉田さん「後世に残したい」⁴⁴⁶²
^{13.7.1}



アダン筆の歴史などを講演する吉田元さん（右から2人目）＝フランス・パリ日本文化会館

② フランス

【久高泰子通信員】パリ日

本文化会館の「日本文化特別講座」で6月19日、嘉手納町で筆工房「琉球大発見」を営む吉田元さん(60)が特別講師として招かれ、「アダン筆の世界」と題する2時間の講演をした。同事業は、パリでも

著名な書道家として活躍している今井陽子さんの尽力で実現した。

吉田さんは、アダン筆が使われた200年前の琉球王朝時代や沖縄を訪れた仏人、名護に残るオランダ墓の話のほか、バジル・ホールが「武器を所有しない琉球国」でナポレオンを驚かせた有名な逸話

にも触れ、仏国と沖縄の修好関係の深さを説明した。

日本の書道と筆文化について「雨月物語」の作者上田秋成も使用していた「幻のアダン筆」の歴史と再生した経緯も説明。参加者へ筆作りワークショップとアダン筆を楽しむ書道を体験させた。

筆の材料や製作方法、墨持ち、穂先、使い方など、アダン筆の特徴と毛筆の違いを説明すると、「アダン筆は利点が多いのに、なぜあまり普及していないのか」「アダンでほかにもどのような製品が作成されているか」などの質問が飛んだ。

途絶えたアダン文化を「後世に残したい」と願う吉田さんは「講師として、アダンの筆と共に沖縄の文化、歴史を紹介することができ、うれしい」と語った。